

## 小売りにおける新製品の最適監視政策 (II)

01204194 流通科学大学情報学部 \* 三道 弘明 SANDOH Hiroaki  
流通科学大学大学院 村原 朱美 MURAHARA Akemi

## 5.3 タイプ2の誤りを犯す場合

新製品が死に筋商品である ( $\lambda = \lambda_2 \in \Lambda_2$ ) にもかかわらず、時刻  $T$  における累積売り上げ個数が偶然  $k$  以上となり、これを売れ筋商品と判断して、時刻  $T$  以降も通常セールを継続する場合の期待利益は、次式で与えられる。但し、 $\sum_{i=m}^{m-1} \cdot = 0$  と定義する。

$$A_2(k, T) = m\alpha_1 \sum_{i=k}^{\infty} p_i(\lambda_2 T) - \beta \left[ \sum_{i=k}^{m-1} \left( T + \frac{m-i}{\lambda_2} \right) p_i(\lambda_2 T) + \frac{m}{\lambda_2} \sum_{i=m}^{\infty} p_i(\lambda_2 T) \right], \quad (12)$$

$$k = 0, 1, 2, \dots, m$$

一方、時刻  $T$  における累積売り上げ個数が偶然  $k$  以上となっても、この時点でバーゲンを開始する場合の期待利益は、次式のようになる。

$$B_2(k, T) = \sum_{i=k}^{m-1} [i\alpha_1 + (m-i)\alpha_2] p_i(\lambda_2 T) + \sum_{i=m}^{\infty} m\alpha_1 p_i(\lambda_2 T) - \beta \left[ \sum_{i=k}^{m-1} \left( T + \frac{m-i}{\delta_2} \right) p_i(\lambda_2 T) + \frac{m}{\lambda_2} \sum_{i=m}^{\infty} p_i(\lambda_2 T) \right], \quad (13)$$

$$k = 0, 1, 2, \dots, m$$

よって、タイプ2の誤りを犯すときの期待損失は

$$C_2(k, T) = B_2(k, T) - A_2(k, T) = \left[ \alpha_2 - \alpha_1 + \beta \left( \frac{1}{\lambda_2} - \frac{1}{\delta_2} \right) \right] \times \sum_{i=k}^{m-1} (m-i) p_i(\lambda_2 T), \quad (14)$$

$$k = 0, 1, 2, \dots, m$$

で与えられる。

## 5.4 期待損失

ここでは、これまでに導出した2種類の期待損失を用いて、先に定義した方策に対する総期待損失を

$$C_0(k, T) = C_1(k, T) + C_2(k, T) = \left[ \alpha_1 - \alpha_2 + \beta \left( \frac{1}{\delta_1} - \frac{1}{\lambda_1} \right) \right] \sum_{i=0}^{k-1} (m-i) p_i(\lambda_1 T) + \left[ \alpha_2 - \alpha_1 + \beta \left( \frac{1}{\lambda_2} - \frac{1}{\delta_2} \right) \right] \sum_{i=k}^{m-1} (m-i) p_i(\lambda_2 T), \quad (15)$$

$$k = 0, 1, 2, \dots, m$$

で与えることとする。よって、これを最小にするような  $(k^*, T^*)$  が最適監視政策である。

## 6. 最適監視政策

6.1  $k$ に関する解析

ここでは、監視期間  $T$  を固定して考える。式 (15) の期待損失の差分をとると

$$\Delta C_0(k, T) \equiv C_0(k+1, T) - C_0(k, T) = \left[ \alpha_1 - \alpha_2 - \beta \left( \frac{1}{\lambda_1} - \frac{1}{\delta_1} \right) \right] \times (m-k) p_k(\lambda_1 T) - \left[ \alpha_2 - \alpha_1 - \beta \left( \frac{1}{\delta_2} - \frac{1}{\lambda_2} \right) \right] \times (m-k) p_k(\lambda_2 T), \quad (16)$$

$$k = 0, 1, 2, \dots, m-1$$

を得る。ここで、定理1より

$$\alpha_1 - \alpha_2 - \beta \left( \frac{1}{\lambda_1} - \frac{1}{\delta_1} \right) > 0 \quad (17)$$

であることから、 $\Delta C_0(k, T) \geq 0$  は

$$\left( \frac{\lambda_1}{\lambda_2} \right)^k \geq \frac{\alpha_2 - \alpha_1 - \beta \left( \frac{1}{\delta_2} - \frac{1}{\lambda_2} \right)}{\alpha_1 - \alpha_2 - \beta \left( \frac{1}{\lambda_1} - \frac{1}{\delta_1} \right)} e^{(\lambda_1 - \lambda_2) T} \quad (18)$$

と等価である。  $\lambda_1 > \lambda_2$  であるので、式 (18) の左辺は  $k$  に関して単調増加である。従って、式 (18) を満足する  $k$  が存在すればその最小値が最適解  $k^*$  である。

ここで、定数  $a$  を

$$a = \frac{\alpha_2 - \alpha_1 - \beta \left( \frac{1}{\delta_2} - \frac{1}{\lambda_2} \right)}{\alpha_1 - \alpha_2 - \beta \left( \frac{1}{\lambda_1} - \frac{1}{\delta_1} \right)} e^{(\lambda_1 - \lambda_2)T} \quad (19)$$

のように定義すると、定理 1 より  $a > 0$  であり、最適解  $k^*$  は以下ようになる。

- (1)  $\lambda_1/\lambda_2 \geq a$  のとき、 $k^* = 0$  である。すなわち、一切バーゲンセールを行わないことが最適である。
- (2)  $\lambda_1/\lambda_2 < a < (\lambda_1/\lambda_2)^{m-1}$  のとき、式 (18) を満足する自然数  $k (0 < k < m)$  が存在し、その最小値が最適解である。
- (3)  $(\lambda_1/\lambda_2)^{m-1} \leq a$  の場合には、 $k^* = m$  である。このことは、時刻  $T$  時点で売れ残りがあれば、即座にバーゲンを実施することが得策であることを意味している。

## 6.2 $T$ に関する解析

$k$  を固定して考えたとき、 $C_0(k, T)$  を最小にするような  $T$  の存在に関する解析は非常に困難である。

## 6.3 最適政策

$T$  の現実的意味を考慮し、その代替案よりなる集合を  $\{T_1, T_2, \dots, T_n\}$  とすると、最適新製品監視政策は以下の手順で求めることができる。

- [1]  $i = 1$ .
- [2]  $C_0(k_i, T_i) = \min_k C_0(k, T_i)$ .
- [3]  $i = i + 1$ .
- [4]  $i > n$  ならば [5] へ。それ以外は [2] へ。
- [5]  $C_0(k^*, T^*) = \min_{i=\{1,2,\dots,n\}} C_0(k_i, T_i)$  とすると、最適政策は  $(k^*, T^*)$  である。
- [6] 終了。

## 7. 数値例

表 1 に、 $m = 100$ ,  $T = 5$  とした場合のケース設定と、 $k^*$  及び  $C_0(k^*, 5)$  を示す。また、図 1 には、各ケースにおける期待損失  $C_0(k, 5)$  を示す。

表 1: ケース設定

	Case 1	Case 2	Case 3
$\lambda_1$	4		
$\lambda_2$	0.5	0.6	0.7
$\delta_1$	6		
$\delta_2$	2		
$\alpha_1$	20		
$\alpha_2$	5		
$\beta$	30		
$m$	100		
$T$	5		
$k^*$	9	10	10
$C_0(k^*, 5)$	5.52	7.70	9.54

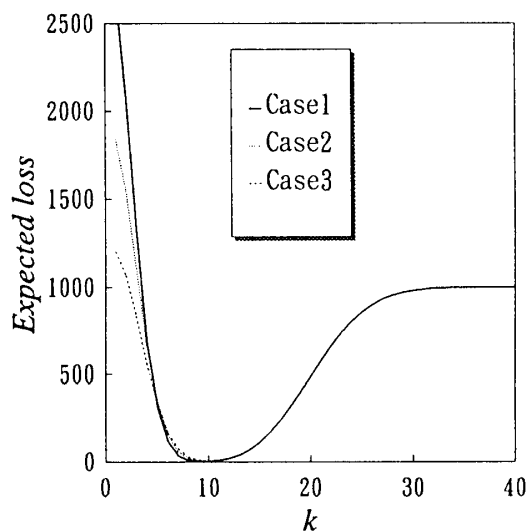


図 1: 期待損失

## 参考文献

- [1] 服部吉伸, POS が活きるストアマーケティング, 日本実業出版社, 1987.
- [2] 野田傑, マイクロマーケティング-顧客データの戦略的活用-, 日刊工業新聞社, 1992.
- [3] 小和田正, 確率過程とその応用, 実教出版, 1988.
- [4] 依田浩, 尾崎俊治, 中川翠夫, 応用確率論, 朝倉書店, 1989.
- [5] 尾崎俊治, 確率モデル論, 朝倉書店, 1996.